

## クラインガルテン利用者 勝屋さんご夫妻のお話

東京都内にお住まいの勝屋さんご夫妻はご主人が森林ボランティアをしていることもあって以前から奥多摩にはよくいらしていたそうです。「最初ここに来た時こんなにひろい庭、どうすればいいのかしら?」と思ったけど、今はもうすっかりスペース埋まっちゃって。ほら、引越した時の部屋とかってそうでしょう?」

現在クラインガルテン利用者は全員開園と同時に入った方達で、それはまさに「畑づくり」から始まったようです。「ここはもともと畑じゃなかったから、石がごろごろ出てくるわけ。まずは石を除けて。これこれ、(と蛇口を指差して)ここ最初下が何にもなくて水はけ悪かったんだけど、出てきた石全部ここに穴掘って入れて。だからこの下1メートルかそれ以上?全部石だよ。」それでもまだ畑から石が出てくるそうです。畑づくりって大変なんですね。



勝屋さんご夫妻の菜園の様子

野菜を育てるのは初めてという勝屋さん。わからないことは講習会や農園を支援している楽農倶楽部の方に聞いているそうです。「野菜は本当に季節のものでね、とれる時はどきっととれるから近所にわけたり、うちは週1回位しか来れないからきゅうりなんか大根くらい大きくなっちゃったり。育ててるから買う量が減ったってことはないけど、野菜を見る目が変わったかな。小松菜なんか虫がついてレースみたいになっちゃうのよ。お店で売ってるのはどれもきれいでしょ?どれだけ農業使ってるのかと思うと、恐くなっちゃうわよね。ここで作ったものは素性が知れてるから安心。」とおっしゃいます。朝は菜園に育っているカモミールやミントでお茶を入れて、新鮮な野菜を調理していただくといひます。とってもすてきですね。「うらやましがってもらいたい時はそう言うのよ。あとはこれとこれ(石と草取り)だから」そう言って笑うご夫妻。そうは言ってもお二人の様子はなんだかとても楽しそうでした。

## おくたま海沢ふれあい農園管理人 堀さんのお話

「畑の土いじりや田舎暮らしに興味があるけど、どうやって初めて良いのか迷っている方は、農園に遊びに来て下さい。」と言うのは農園世話役の堀さん。ふれあい農園は、畑や田舎暮らしを体験できる、東京ではめずらしい場所です。「ここでは、地元の方達の支援もあって、心あたかい交流をしながら、安心・安全で旬の野菜を楽しみながら作れます。」初心者の方も、農園で野菜作りをしながら、田舎のふれあいを楽しんでいるようです。また、『また里山にある体験農園施設』というこの農園の特徴どおり、施設は海沢の民家に隣接しています。周囲には介護施設や学校などがあり、農園は海沢地区一帯の中心地のように。「管理棟の前の広場がお祭りの会場になったりします。この前は地元の清掃会に利用者さん達も参加してくださって。最近はこの辺を散歩する人も増えて、利用者さんと立ち話をしているのを見ることがあります。」と言います。利用者の方にも地元の方にも、とても良い交流の輪が広がっているようでした。



左上から右へ順に いざ、草刈り出発/摘みとり農園は坂になってます。坂畑(さかっぱたけ)と呼ぶそう/草の刈り方を教わりました。刈った草は苗木の周りに寝かせるとこれがまた雑草を生えにくしてくれます/草刈りは無心になれます。せっせと刈ります/栗の木もありました/ブルーベリーもたくさんなってます。堀さんの言葉に甘えて食べながらの作業です/作業後、今度はせっせとブルーベリー狩り/コップいっぱい獲れました。ごころうさまでした!



## 1日 農園体験 してみました



摘みとり農園の草刈りをしました。地道な作業ですが安心・安全な作物を育てるには必要不可欠な作業。草刈りをしているうちに暑さも流れる汗のことも忘れてしまいました。作業を終えた時には心も畑もさっぱりと気分爽快。堀さん曰く、草刈りはいつでも歓迎!だそうです。

### おくたま海沢ふれあい農園 概要

- クラインガルテン 全10区画 / 1区画 農園 270㎡、ラウベ 27㎡  
(電気・ガス・水道・キッチン・ユニット式トイレ完備)
- 日帰り型農園 全25区画 / 1区画50㎡
- 摘みとり農園 ブルーベリー、すもも、柿、栗など(開園は2~3年後)

